

令和元年度 さつない学園経営方針

1 はじめに

子どもは「地域の宝」である。子ども一人一人は、多種多様な資質・能力、可能性を秘めている。子どもの特性に気づき、引き出し、的確に伸ばしていくことが、小中学校の責務である。

しかし、近年の小中学校の実態をみると、この半世紀で児童生徒の生理的成熟が進み、成長は2年程度早まったと言われる。また、「学校の楽しさ」「学習への意欲」「自己肯定感」などは、小学校高学年から低下している。また、いじめ・不登校については、中学校入学時に増加し、いわゆる「中一ギャップ」が指摘されている。その誘因の一つとして、小学校と中学校の制度的または文化的な相違点も挙げられている。

そこで、小中学校が地域と共に「めざす子どもの姿」を共有し、新たな学園文化を創造していく。そして、義務教育9年間を通して連続した見取りと一貫した指導により、小中学校の滑らかな接続を図るとともに、児童生徒の力を最大限に伸ばすことに努めたい。

2 学園名称「さつない学園」について

古舞小、途別小、札内南小、札内中は札内川（※途別川）流域沿いに位置するとともに、各小学校で育った児童は札内中学校生徒としてふるさとを巣立つことから、古舞、途別、札内地区一帯を「さつない」とし、学園の名称に用いることとした。また、各学校名の1文字を名称に用い、「さつない学園」とした。

3 学園経営の基本方針

- (1) 9年間を見通した教育課程を編成し、小中一貫教育を推進する。
 - 学園地域の特性と児童生徒の実態を考慮した社会に開かれた教育課程
 - 一貫した指導による学力・体力の向上、豊かな心の育成
- (2) 児童生徒・教職員・地域のつながりを大切にし、教育効果を高める。
 - 児童生徒同士や地域とのつながりを深める取組
 - 教職員の合同研修・交流等による資質・能力の向上、一貫した指導
- (3) コミュニティ・スクールの機能を生かし、地域と共にある学園づくりに努める。
 - さつない学園学校運営協議会による地域の学園運営への参画
 - 保護者・地域・関係機関との協働による学園づくり

4 学園のめざす子どもの姿

『ふるさとを愛し たくましさを身に付けた子ども』

～3つの力を磨く義務教育9年間～

自ら表現していく力

自ら学ぼうとする力

他とかかわり合う力

学園内のいずれの学校においても、各種調査や学校評価の結果などから共通して、児童生徒の「たくましさ」に課題が見られた。受け身ではなく自ら進んで学んだり表現したりして、最後まで諦めずに粘り強く取り組む力、臆することなく他者と積極的にかかわることのできる力、そのような「たくましさを身に付けた子ども」を育てていくことが必要である。また、地域とのかかわりの中で、ふるさとのよさにふれ、誇りや愛着をもち、ふるさとに貢献できる力を育てていきたい。

現在、五輪選手5名を輩出している幕別町。中でも、冬季五輪でメダルを獲得した高木姉妹はさつない学園（札内中）出身である。札内で学びたくましさを身に付けた先輩の姿を追うとともに、それぞれがもっている原石を磨き、磨き合うことでより光り輝く子どもの姿を期待している。そして、さらに身に付けたたくましさをふるさとで生かし、輝き続ける人づくりを目指す。

5 今年度の重点

(1)小中一貫教育9年間の学び

学校と地域でつくる学び

～合唱（うた）でつながり育つ9年間～（3カ年計画 1年次）

(2)小中交流教育の充実・発展

- ①計画的な出前授業の実施
- ②あいさつ運動の定例化
- ③合同出前授業の充実（小6 中学校登校日）

(3)学園組織体制の確立

- ①全体会の開催
- ②学園研修会・交流会の開催
- ③さつない学園教育実践交流会の開催
- ④各部会事業の推進

6 さつない学園組織構成および役割

(1)さつない学園組織

①さつない学園会議（年5回 開催）

- ・内 容～推進方針と年間計画，重点目標の設定，具体的取組検討，進捗状況報告，推進連絡調整，CS 推進に向けた地域・家庭との連携
※教頭・主幹教諭は，教頭会議終了後，さつない学園会議の確認をとる。（さつない学園会議の議案確認）
- ・委員構成～校長，教頭，主幹教諭，各校小中一貫コーディネーター（各校教諭）
- ・役 割～学 園 長（札内中学校長）：さつない学園会議を開催し，全体を統括する。
副学園長（各小学校長）：学園長を補佐する。
事務局長（札内中学校教頭）：学園会議の運営および学園一貫教育の推進にあたる。
事務局次長（各小学校教頭）：事務局長を補佐する。
委 員（主幹教諭・各校コーディネーター）：学園一貫教育の企画・調整，各部の進行状況確認にあたる。

②さつない学園全体会（年1回 4月開催）

- ・内 容～さつない学園経営方針のもと，小中一貫教育の推進を確認する。
- ・部会構成～「まなび」，「こころ」，「かかわり」の3部会
- ・部員構成～さつない学園の教職員が3部会いずれかに所属
- ・役 割～部 長（中学校教諭1名）・副部長（各校小学校教諭1名ずつ）・部 員
アドバイザー（教頭，主幹教諭）※部長と副部長は，コーディネーターが兼ねることができる。
- ・部会推進内容
 - 「まなび」部・・・<自ら学ぼうとする力>に対応
学習のつながりを大切にし，学力向上をめざす取組等の推進
 - 「こころ」部・・・<自ら表現していく力>に対応
子どもたちの豊かな心，たくましい体を育てる取組等の推進
 - 「かかわり」部・・・<他とかかわり合う力>に対応
子ども・教師・学校・家庭・地域のつながりを深める取組の推進

③さつない学園教職員研修会・交流会（年2回 7月 12月）

- ・内 容～学園全教職員による「さつない学園児童生徒の課題」の共有と交流

(2)今年度のさつない学園会議および各部の活動重点

○さつない学園会議～学園全体および各部の取組の具体的取組検討

- ・推進方針と年間計画、重点目標の設定
- ・さつない学園教職員研修会・交流会の企画・運営
- ・9年間の学びプロジェクトの企画および運営と推進
- ・さつない学園教育実践交流会の企画と全体運営

○「まなび」部～授業の構えをつくる学習規律の確立

- ・ユニバーサルデザインにもとづく学習規律の確立
- ・小中交流教育の推進

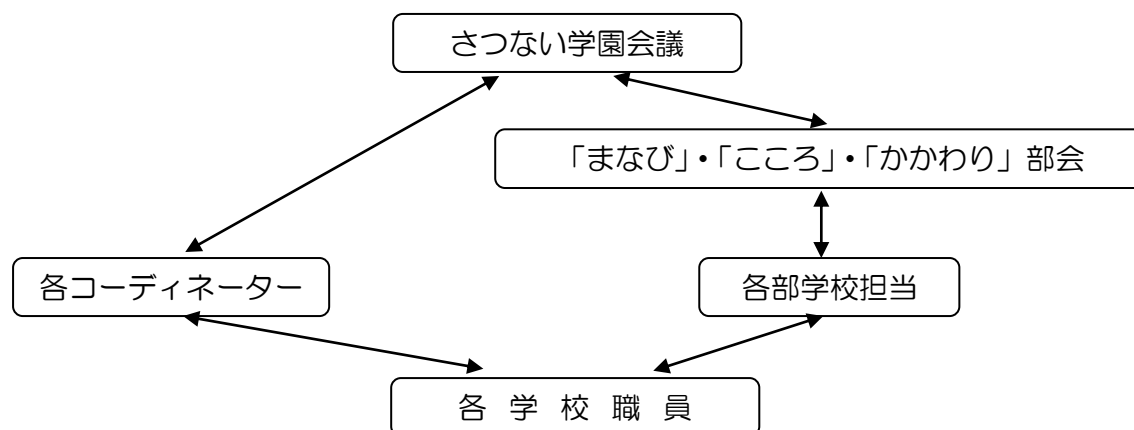
○「こころ」部～児童会・生徒会の連携・機能および基本的な生活習慣の確立

- ・あいさつ運動推進や生活のきまりの作成

○「かかわり」部～小中学校の子ども同士のつながりや教員交流の実践

- ・学習会、英語検定等の派遣
- ・さつない学園教育実践交流会の企画・運営

(3)さつない学園推進構造図（各活動の流れ）



◎さつない学園会議内容（イメージ）

○前年度3月か新年度4月（全体会の準備のため休業中に事務局会議でもよい。）

- ・部会会員取りまとめと名簿作成
- ・資料作成

○5月か6月（業務確認とさつない学園学校運営協議会の準備）

- ・各部の計画：「まなび」部～小中交流教育と学習規律の確立
「こころ」部～あいさつ運動の推進や生活のきまりの作成
「かかわり」部～学習会等の派遣や教育実践交流会の運営

- ・教職員研修会・交流会（課題設定）
- ・教育実践交流会の検討

○8月か9月（業務確認と教育実践交流会の計画、さつない学園学校運営協議会の準備）

- ・教育実践交流会の計画
- ・各部の推進状況の交流

○11月（業務確認）

- ・教職員研修会・交流会（課題設定）
- ・各部の推進状況の交流

○1月か2月（業務の反省とさつない学園学校運営協議会の準備）

- ・学園経営案について
- ・各部の推進状況の交流